

申立ての趣旨及び紛争の要点

申立ての趣旨

相手方 は、申立人に対し、下記金員を支払う。

金 54,000 円

上記金額に対する平成(令和)元年12月10日から支払済みまで
年 〇 %の割合による遅延損害金
との調停を求める。

紛争の要点

1 本件事故(事件)の発生

(1) 発生日時 平成(令和)元年12月10日(午前)・午後 10 時 15 分頃

(2) 発生場所 北海道 釧路 (市)・郡 〇〇 (町)・村

10 丁目 10 番 10 号

(3) 相手方の具体的行為 (口詳細は別紙のとおり)

申立人は、上記日時に上記場所付近路上において、酔った状態の相手方に
後ろからいきなり飛びかかれ、一方的に左後頭部及び頸部を殴られる暴行
を受け、左頭部裂傷、頸椎捻挫の傷害を負った。

「申立ての趣旨」には、あなたが希望する解決の内容を記載します。

請求金額の総額を記載します(紛争の要点3に記載したのと同じ金額が記載されることになります。)

遅延損害金を請求する場合は、にと記入し、その起算日(「事故(事件)の発生日」など)と利率を記入してください。
遅延損害金を請求しない場合は、記入する必要はありません。

「紛争の要点」には、申立ての趣旨を理由付けるあなたの言い分などを記載します。

1

(1) 本件事故(事件)の発生日を記入します。

(2) 本件事故(事件)の発生場所を記入してください。

(3) 事故(事件)の概要(特に相手方の具体的行為)について、記入してください。

書ききれない場合は、別紙に記入することもできます(その場合には、「詳細は別紙のとおり」のにと記入して、詳細を記載した別紙を添付してください。)

記載例と解説

2 申立人が上記1によって受けた損害の内容

(1) 治療費 として 金 **54,000** 円

ア 傷害名 **左頭部裂傷, 頸椎捻挫**

イ 治療にかかった日数と治療の経緯

平成 **令和** 元 年 **12** 月 **10** 日から平成 **令和** 2 年 2 月 9 日まで

計 **62** 日

通院 入院し, 前記傷害の治療を受けた。(甲 **1, 2**)

(ただし, 実通院日数は**10**日)

として 金 円 (甲)

請求する理由

として 金 円 (甲)

請求する理由

として 金 円 (甲)

請求する理由

合計額 金 **54,000** 円

3 よって, 申立人は, 相手方に対し, 民法709条に基づき,

上記損害額 合計 **54,000**円

及びこれに対する平成 **令和** 元 年 **12** 月 **10** 日から支払済みまで年 %

の割合による遅延損害金

の支払を求める。

2 (1) 損害の内容に治療費がある場合は, にと記入し, 治療費の金額と, ア傷害名, イ治療にかかった日数と治療の経緯(通院・入院などの別)を記入してください。

診断書や治療経過を記載した書面があるときは, その内容を確認して記入してください。

診断書や治療経過を記載した書面, 治療費の領収証書などを証拠書類として提出する場合は, (甲)の空欄に該当する証拠書類の番号を記入してください。

治療費以外の損害がある場合は, にと記入して, その損害の名称(交通費, 入院雑費, 入院付添費, 休業損害, 慰謝料など), 金額と請求する理由を具体的に記入してください。

※ 相手方の不法行為と相当因果関係に立つ損害(相当と考えられる範囲内のもの)

損害額を計算式により算出した場合は, その計算方法(式)を併記してください。

(例 入院期間3日間で1日当たり1500円の入院雑費を請求する場合,
1日あたり1500円 × 3日間(入院期間) = 4500円 などと記入してください。)

また, できる限り請求の根拠となる証拠書類として提出し, (甲)の空欄に該当する証拠書類の番号を(甲1, 2など)記入してください。

上記2に記入した損害の合計金額を記入してください。

3 本件において申立人が相手方に対し請求する損害額(合計額)を記入してください。

遅延損害金を請求する場合は, にを記入して, その起算日(「事故(事件)の発生日」や「相手方に支払を求めた日の翌日」など)と利率を記入してください。

遅延損害金を請求しない場合は, にを記入する必要はありません。

この欄に記載した金額, 遅延損害金の起算日と利率が, 申立ての趣旨の記載と同じであることを確認してください。

(28-損害賠償(暴行・傷害))

4 その他の紛争の要点

その他の紛争の要点には、紛争の背景やこれまでの交渉経緯などを自由に記載してください。

(記載例)

- 相手方は、申立人に令和〇年〇月〇日までの支払いを約束したにもかかわらず未だ支払をせず、支払遅延の理由があいまいなため、調停の席上で遅延理由を再確認し、解決をはかりたい。
- 相手方が損害の内容について「・・・」と主張し、争っている。
- 申立人と相手方とは隣近所(友人同士)であるため、話し合いによる円満な解決を強く希望する。
- 申立人は相手方と令和〇年〇月〇日及び同年△月△日に本件解決のため話し合いを行ったが、申立人の主張する「・・・」の点と相手方の「・・・」という主張とが食い違い、解決に至らなかった。